

## 持続的成長の基盤

MVVSS制定に合わせて、多様なステークホルダーとの関係性を重視して長期的な企業価値向上をめざすことをコーポレートサステナビリティビジョンとして明文化しました。そして2021年、この考え方に基づいてマクセルが取り組むべき重要課題（マテリアリティ）を新たに定義しました。今後この重要課題解決に向けて具体的活動につなげていきます。

### MVVSS 制定

2020年7月

新たなVISION「独自のアナログコア技術で、社員・顧客・社会にとってのMaximum Excellenceを創造する」に向けてマクセルグループならではの社会課題解決をしていきます。

### サステナビリティ ビジョン策定

2020年8月

多様なステークホルダーとの関係性を重視して長期的な企業価値向上とSDGs達成に貢献していくことを明文化しました。

### マテリアリティ特定

2021年8月

社員・顧客・社会にとってのMaximum Excellenceを創造するというVISIONを実現していくため、マクセルが注力すべき重要課題を特定しました。

2020

2021



## コーポレートサステナビリティビジョンの 実現に向けた7つのマテリアリティ

1

独創技術によるイノベーション創出



2

成長事業を通じた社会課題の解決



3

価値を生み出す人・組織づくり



4

顧客価値の最大化



5

環境活動による経済価値の創出



6

事業ポートフォリオ経営の強化

7

グループ・ガバナンスの強化

# マクセルグループの価値創造モデル

マクセルグループは社会課題を価値創造の起点と捉えています。当社のフィロソフィーであるMVVSSを社員が旨とし、強みのアナログコア技術を活かして中期経営計画MEX23では価値提供に徹底してこだわり、かつサステナビリティ経営の強化を通じて、持続可能な社会の実現に向けて「なくてはならない会社」であり続けます。

ステークホルダーに提供する価値

P34

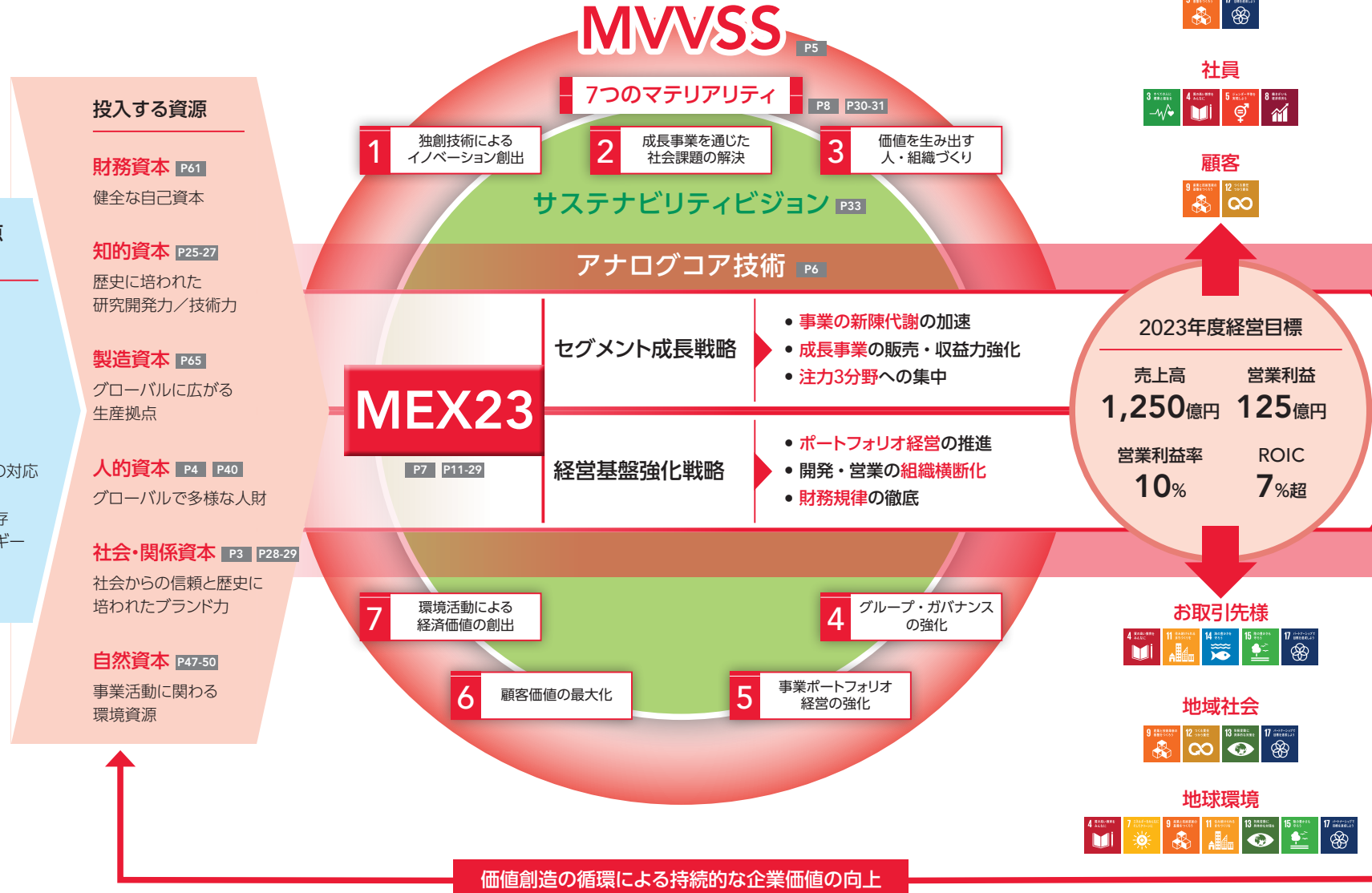
株主



社員



顧客



## 価値創造の起点 (社会課題)

- 少子高齢化
- 医療費の増大
- 感染症との闘い
- 労働力不足
- 異常気象
- 自然災害
- 不足する資源への対応
- 人工知能との共存
- 再生可能エネルギーへの転換
- インフラ老朽化